

授業科目名： 物理学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 仲野 純章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において物理学分野の教育を実践するための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、物理学に関する基礎的な知識の獲得や法則理解を目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中・高等学校段階で扱われる物理学の内容を中心に講義形式で教授する。その際、重要な要素に的を絞りながら、簡潔明瞭に物理学の基礎的な知識獲得と法則理解を進められるよう授業を展開する。また、その中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性についても触れていく。この他、各授業で扱う物理学の内容については、実際の中・高等学校の指導場面における「学習者の陥りやすい誤り・つまずき」「指導の工夫例」にも適時言及する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、物理学で使う数値・記号・単位）</p> <p>第2回：力学（物体の運動を表す方法としての位置、変位、速度、加速度）</p> <p>第3回：力学（代表的な直線上の運動である等速直線運動と等加速度直線運動）</p> <p>第4回：力学（様々な力の種類・性質と表し方）</p> <p>第5回：力学（力と運動の関係性（慣性の法則、運動の法則））</p> <p>第6回：力学（力と運動の関係性の応用（様々な力と運動）、圧力・浮力）</p> <p>第7回：力学（物理学における「仕事」の捉え方）</p> <p>第8回：力学（運動エネルギーや位置エネルギーといったエネルギー）</p> <p>第9回：力学（運動エネルギーと位置エネルギーの和である「力学的エネルギー」の保存）</p> <p>第10回：熱（熱というエネルギーの本質とその利用）</p> <p>第11回：波の性質（波の本質とその基礎的な性質（合成、反射等））</p> <p>第12回：音（身近な波である「音」に関する様々な現象（うなり、共振、共鳴等））</p> <p>第13回：静電気（物体中にたまる電荷とそれがもたらす現象）</p> <p>第14回：電流（物体中を移動する電荷とそれがもたらす現象）</p> <p>第15回：交流と電磁波（交流の発生原理とその利用、電磁波の種類とその利用）</p> <p>定期試験を実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p>			

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメを配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 物理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲野 純章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において物理学分野の教育を実践するために必要となる、より確かな力を養うことをテーマとする。具体的には、物理学に関する知識や法則理解を深めることを目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性に加え、他教科・他領域との関連性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中・高等学校段階で扱われる物理学の内容を基本とし、より発展的な内容を講義形式で教授する。その際、重要な要素に的を絞りながら、簡潔明瞭に物理学の知識獲得と法則理解を進められるよう授業を展開する。また、その中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性、あるいは他教科・他領域との関連性についても触れていく。この他、各授業で扱う物理学の内容については、実際の中・高等学校の指導場面における「学習者の陥りやすい誤り・つまづき」「指導の工夫例」にも適時言及する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、物理学で使う数値・記号・単位）</p> <p>第2回：力学（平面内の運動を表す方法とそれを利用した落体の運動の発展的解釈）</p> <p>第3回：力学（剛体という物体概念とそれに作用する力の性質（剛体のつり合い等））</p> <p>第4回：力学（衝突・分裂現象の解釈（運動量、力積、反発係数を導入しながら））</p> <p>第5回：力学（等速円運動と単振動）</p> <p>第6回：力学（宇宙に関わる力学（ケプラーの法則、万有引力等））</p> <p>第7回：熱（分子レベルで捉える気体の状態や変化（気体分子の熱運動、熱力学第1法則等））</p> <p>第8回：波（正弦波の表し方と波の伝わり方（干渉、回折、反射、屈折等））</p> <p>第9回：音（音の性質とドップラー効果）</p> <p>第10回：光（光の性質とレンズ・鏡に対する作用）</p> <p>第11回：電気と磁気（静電気の発展的解釈（静電誘導、誘電分極等）と電界・電位）</p> <p>第12回：電気と磁気（電流の発展的解釈、直流回路と回路の構成デバイス（コンデンサー、半導体等））</p> <p>第13回：電気と磁気（電流と磁界の関わり（電流がつくる磁界と電流が磁界から受ける力））</p> <p>第14回：電気と磁気（電流と磁界のその他関わり（ローレンツ力、電磁誘導、誘導起電力等））</p> <p>第15回：原子・分子の世界</p> <p>定期試験を実施する。</p>			

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジユメを配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 物理学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 仲野 純章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験（コンピュータ活用を含む。） ・「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な物理学実験に取り組む中で、学校現場において物理学実験を自ら検討・実践していくための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の物理学に関わる基本的な実験の手法および実験の意義を修得し、理科の見方・考え方を身に付けることを目標とする。また、多様な生徒や教職員が存在する学校現場で柔軟・円滑に教育活動を推進できるよう、ファシリテーション力を醸成することも目標とする。			
授業の概要 中・高等学校段階の物理学に関わる比較的平易かつ重要な実験を扱い、その中で、小・中学校における学びの系統性や連続性等についても触れていく。また、定量的な実験を中心に、データ整理・分析等の場面におけるコンピュータ活用についても適時指導する。なお、授業形態としては、個人単位で実験に取り組む時間を多く設けると共に、ファシリテーション力醸成に向けて、各回における予測や結果に関する議論、あるいはグループでのオリジナル実験の企画・推進等、グループで活動する場面も多く取り入れる。			
授業計画 第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、グループ分け） 第2回：実験練習（ノギスを用いた密度計測）、コンピュータを用いたデータ処理、レポートの書き方 第3回：「力学」分野の実験（単振り子における各種パラメーター間の関係性測定） 第4回：「力学」分野の実験（ばねの荷重-伸び特性測定） 第5回：「力学」分野の実験（反発係数の測定） 第6回：「熱」分野の実験（ブラウン運動の発生・観察） 第7回：「波」分野の実験（光の反射・屈折における入射角と反射角や屈折角との関係性測定） 第8回：「電気と磁気」分野の実験（電気回路における電圧と電流、抵抗間の関係性測定） 第9回：「電気と磁気」分野の実験（静電誘導の発生・観察） 第10回：「電気と磁気」分野の実験（誘電分極の発生・観察） 第11回：グループでのオリジナル実験（テーマの検討、実験計画） 第12回：グループでのオリジナル実験（予備実験、本実験）			

第13回：グループでのオリジナル実験（解析、まとめ、発表準備）

第14回：グループでのオリジナル実験（発表）

第15回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメや実験ワークシートは配付する。

学生に対する評価

課題レポート（80%）、グループ発表（20%）

授業科目名： 化学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 谷川 直也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する項目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校現場において化学分野の教育を実践するための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、化学に関する基礎的な知識の獲得や法則理解を目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>中・高等学校段階で扱われる化学の内容を、原子や分子のふるまいに関係した一連の自然界の現象のなかに、古典物理学の理論では説明できないものがあることから量子化学を導入し、丁寧に教授する。各回の講義の導入では、主として高校化学の範囲の問題を解き、講義の目標を明確にする。また、各回の講義の理解を問う課題を配付し、次回に提出、次々回に模範解答、資料と一緒に返却するサイクルを繰り返す。資料の中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性についても触れていく。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス、物質とその構造①（組成からみた物質の分類、物質を構成する基本粒子）			
第2回：物質とその構造②（基本的物理量）			
第3回：物質とその構造③（原子の構造、ボーアモデル）			
第4回：物質とその構造④（原子の構造、軌道と電子雲）			
第5回：物質とその構造⑤（電子配置、周期律）			
第6回：化学結合①（オクテット則、イオン結合）			
第7回：化学結合②（共有結合（I）ルイス構造）			
第8回：化学結合③（共有結合（II）軌道表示）			
第9回：化学結合④（金属結合、分子間力）			
第10回：物質の状態（物質の状態変化、熱運動と平衡、状態図）			
第11回：酸と塩基①（酸と塩基の定義、pH）			
第12回：酸と塩基②（中和反応、中和滴定）			
第13回：酸化と還元①（酸化と還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤）			
第14回：酸化と還元②（イオン化傾向、電池、ダニエル電池）			
第15回：酸化と還元③（電気分解）			
定期試験			
テキスト			

理科教育力を高める基礎化学（長谷川正・國仙久雄・吉永祐介著、裳華房）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

探究する新しい科学1（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学2（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学3（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

改訂 化学基礎（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

改訂 化学（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

参考書・参考資料等

各回において、必要なプリント（授業の導入、課題）を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 化学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川 直也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する項目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において化学分野の教育を実践するために必要となる、より確かな力を養うことをテーマとする。具体的には、化学に関する知識や法則理解を深めることを目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性に加え、他教科・他領域との関連性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中・高等学校段階で扱われる化学の内容を基本とし、原子、分子の集団的なふるまいを化学熱力学の視点を取り入れた講義形式で丁寧に教授する。各回の講義の導入では、主として高校化学の範囲の問題を解き、講義の目標を明確にする。また、各回の講義の理解を問う課題を配付し、次回に提出、次々回に模範解答、資料と一緒に返却するサイクルを繰り返す。資料の中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性、あるいは他教科・他領域との関連性についても触れていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、物質の状態①（固体の状態 イオン結晶、共有結合の結晶、分子結晶）</p> <p>第2回：物質の状態②（液体の状態 希薄溶液の性質）</p> <p>第3回：物質の状態③（気体の状態 気体の性質、理想気体と気体の法則）</p> <p>第4回：物質の状態④（気体の状態 実在気体の状態方程式、気体分子運動論）</p> <p>第5回：反応速度①（反応速度の表し方、反応速度式）</p> <p>第6回：反応速度②（活性化エネルギーと触媒、アレニウスの式）</p> <p>第7回：化学熱力学①（系と外界、熱力学第一法則、エンタルピー）</p> <p>第8回：化学熱力学②（熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギー）</p> <p>第9回：無機化合物の構造と性質①（典型元素の化合物）</p> <p>第10回：無機化合物の構造と性質②（遷移元素の化合物）</p> <p>第11回：有機化合物の構造と命名（有機化合物の構造、有機化合物の命名）</p> <p>第12回：有機化合物の反応①（ハロゲン化アルキル、アルコール、アルケン、アルキン）</p> <p>第13回：有機化合物の反応②（カルボニル化合物と芳香族化合物の反応）</p> <p>第14回：高分子化合物（連鎖重合、逐次重合、高分子の分子量）</p> <p>第15回：環境と化学（オゾンホール、温室効果、酸性雨、水質汚濁、エネルギー資源）</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

理科教育力を高める基礎化学（長谷川正・國仙久雄・吉永祐介著、裳華房）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

探究する新しい科学1（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学2（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学3（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

改訂 化学基礎（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

改訂 化学（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

参考書・参考資料等

各回において、必要なプリント（授業の導入、課題）を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 化学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 谷川 直也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学実験（コンピュータ活用を含む。） ・「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な化学実験に取り組む中で、学校現場において化学実験を自ら検討・実践していくための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の化学実験に関わる基本的な実験の手法および実験の意義を修得し、理科の見方・考え方を身に付けることを目標とする。また、多様な生徒や教職員が存在する学校現場で柔軟・円滑に教育活動を推進できるよう、ファシリテーション力を醸成することも目標とする。			
授業の概要 中・高等学校段階の化学に関わる比較的平易かつ重要な実験を扱い、主として結果から考察、結論に至る過程を修得する。実験によっては、実験計画も考えさせる。その中で、小・中学校における学びの系統性や連続性などについても触れていく。その際、より効果的に目標を達するため、個人単位で実験に取り組む時間を多く設ける。各回の実験終了時に、実験内容に直接または教科横断的内容を含む調べ学習のプリントを配付し、実験レポートとして、1週間後に提出を課す。実験レポートは点検し、評価を付して翌週に関連資料とともに返却するサイクルを15回繰り返す。			
授業計画 第1回：ガイダンス（安全に配慮した化学実験、薬品の分類、実験器具の名称、レポートの書き方、コンピュータを活用したデータ処理の方法） 第2回：水溶液の濃度調製の方法と廃液処理（ワークシート） 第3回：赤ワインの蒸留（4人一組） 第4回：気体、液体の体積変化（水を少量加えた丸底フラスコの口に付けた風船をフラスコ内に膨らませる実験計画を立てさせる）（4人一組） 第5回：塩化ナトリウムの融解（2人一組、4人一組） 第6回：プラスチックの識別（4人一組） 第7回：炭素の旅（酸素の満たした丸底フラスコの中に木片を入れ、加熱する。その後、火を付けたマグネシウムリボンを加える）（4人一組） 第8回：岩塩のへき開を利用したアボガドロ定数の測定（個別実験） 第9回：水蒸気でマッチに点火（4人一組）			

第10回：pHと指示薬（マイクロスケール実験）（個別実験）

第11回：中和滴定（食酢の中の酢酸の濃度決定）（2人一組）

第12回：電池の作成（レモン電池、ダニエル電池、水素・酸素燃料電池）（4人一組）

第13回：水の電気分解（2人一組）

第14回：ナイロン6・10の合成（個別実験）

第15回：薬をつくろう（サリチル酸の反応）（4人一組）

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なプリント（実験プリント、調べ学習・考察のポイント）を配付する。

学生に対する評価

各回の実験で課すレポート（80%）、実験への取り組む態度（20%）

授業科目名： 生物学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 将也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において、生物分野の教育を実践するための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、生物学に関する基礎的知識の獲得と様々な生命現象の原理の理解を目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生物の共通性や多様性、生命の連続性と恒常性の基盤となる仕組みなど、分子から個体群のレベルに至る幅広い生物的事象について、初等・中等教育における生物学分野の内容を中心に講義形式で教授する。また、その中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性についても触れていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：生物の多様性と共通性（多様な生物に見られる共通性から生物の定義を見出す）</p> <p>第3回：生物の系統と分類（リンネによる階層的分類や二名法、種の定義について理解する）</p> <p>第4回：細胞の構造と種類（原核生物と真核生物における細胞構造の違いを理解する）</p> <p>第5回：代謝とエネルギー（ATPを介した異化と同化の仕組みについて理解する）</p> <p>第6回：光合成（光と生体分子の相互作用や植物における光合成特性の多様性の理解を深める）</p> <p>第7回：遺伝情報とDNA（染色体、DNA、遺伝子、ゲノムの違いとDNAの分子構造を学ぶ）</p> <p>第8回：遺伝情報の複製と分配（体細胞分裂における細胞周期の過程を理解する）</p> <p>第9回：遺伝情報の発現（遺伝情報がDNAからRNAを経てタンパク質へと流れることを理解する）</p> <p>第10回：体液と体内環境（体液の種類や血液の働きから恒常性を保つための仕組みを理解する）</p> <p>第11回：体内環境の調整（ヒトの自律神経系の種類と働きについて理解する）</p> <p>第12回：免疫（リンパ球や白血球による生体防御のメカニズムを理解する）</p> <p>第13回：植生と遷移（植生の区分や構成する種を学ぶことで、植生遷移の過程を理解する）</p> <p>第14回：気候とバイオーム（日本の気候特性とバイオームの多様性を理解する）</p> <p>第15回：生態系とその保全（生態系の多様性を学びそれを保全する意義を理解する）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p>			

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

田部の生物基礎をはじめからていねいに（田部真哉著、ナガセ）

必要に応じて適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 生物学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 将也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において生物学分野の教育を実践するために必要となる、より確かな力を養うことをテーマとする。具体的には、生物学に関する知識や法則理解をさらに深めることを目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性に加え、他教科・他領域との関連性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生物学は日進月歩で発展が進む学問領域であり、初等・中等教育における内容と最新の知見との間には大きな乖離が存在する。そこで、これらを理解し、高等教育における常識を身につけることを意識しつつ、分子から生態系に至る幅広い生物的事象とした生物学、特に細胞生物学、分子遺伝学、生態学、進化生物学、系統分類学、保全生物学などの基礎について概説する。また、その中で、小学校を含めた校種間の系統性や連続性、あるいは他教科・他領域との関連性などについても触れていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：生物の定義（生物を構成する単位や代謝プロセス、増殖方法から生物とは何かを整理する）</p> <p>第3回：細胞とタンパク質（細胞の構造と働きから酵素と基質の相互作用までを取り扱う）</p> <p>第4回：DNAとゲノム（セントラルドグマの概念に基づく転写や翻訳の機構を理解する）</p> <p>第5回：代謝（呼吸、発酵、光合成など、ATPを介したエネルギーの獲得機構を理解する）</p> <p>第6回：細胞分裂と細胞運動（細胞周期の分子機構と細胞を支え、動かす仕組みについて理解する）</p> <p>第7回：シグナル応答と細胞内シグナル伝達（細胞が情報を得る方法を理解する）</p> <p>第8回：細胞内輸送（作られたタンパク質がどのように輸送され、分解されるかを理解する）</p> <p>第9回：遺伝子の発現制御（転写制御の基本とエピジェネティクスについて理解する）</p> <p>第10回：動物の生殖と発生（卵・精子の形成と動物の初期発生を理解する）</p> <p>第11回：植物の生殖と発生（花の作りや受精方法、系統間における繁殖様式の違いを理解する）</p> <p>第12回：生物の系統と分類（Margulisの5界説と3ドメイン説から生命の初期進化を理解する）</p> <p>第13回：生物進化のメカニズム（自然選択説から発展した進化の総合説を理解する）</p> <p>第14回：生態系の多様性と維持（生物群集と個体、環境との相互作用を理解する）</p> <p>第15回：生態系の保全（生き物を保全するための科学的な手法について学ぶ）</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

基礎からスタート 大学の生物学（道上達男著、裳華房）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

授業科目名： 生物学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山本 将也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学実験（コンピュータ活用を含む。） ・「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な生物学実験に取り組む中で、学校現場において生物学実験を自ら検討・実践していくための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の生物学に関わる基本的な実験の手法および実験の意義を修得し、理科の見方・考え方を身に付けることを目標とする。また、多様な生徒や教職員が存在する学校現場で柔軟・円滑に教育活動を推進できるよう、ファシリテーション力を醸成することも目標とする。			
授業の概要 生物の構造と多様性、そして環境との関わりなどを理解するために、分類学、解剖学、細胞学的な観察および分子生物学・生化学的な実験を行う。その過程で、生体組織の染色法や生物標本の作成など、中・高等学校段階の生物学に関わる基本的な観察・実験の技能を習得する。各回における予測や結果に関する議論、あるいはグループでのオリジナル実験の企画・推進等、グループで活動する場面も多く取り入れ、より効果的に目標を達するために個人単位で実験に取り組む時間を多く設ける。また、その中で、小・中学校における学びの系統性や連続性などについても触れていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：植生調査と植物標本の作成 第3回：身近な花の構造観察 第4回：植物組織の観察と永久プレパラートの作成 第5回：魚類の骨格系の観察（透明標本の作成） 第6回：二枚貝と魚類の解剖 第7回：カビ・菌類の観察 第8回：大腸菌の形質転換 第9回：DNAバーコーディング（1）DNA抽出・PCR・電気泳動 第10回：DNAバーコーディング（2）コンピュータを用いて、塩基配列の解読・BLAST検索・分子系統樹の作成を行う			

第11回：グループでのオリジナル実験（グループ分け、テーマの検討、実験計画）

第12回：グループでのオリジナル実験（予備実験、本実験）

第13回：グループでのオリジナル実験（解析、まとめ、発表準備）

第14回：グループでのオリジナル実験（発表）

第15回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

課題レポート（80%）、グループ発表（20%）

授業科目名： 地学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 井村 有里
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校現場において地学分野の教育を実践するための基盤となる、力を養うことをテーマとする。具体的には、地学に関する基礎的な知識の獲得や法則理解を目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>中・高等学校段階で扱われる地学の内容、惑星としての地球のすがたとその変動の歴史を講義形式で教授する。火山と地震、大気の運動と熱の輸送、宇宙と太陽系の歴史などを中心に解説し、測定の方法や歴史についても触れる。また、その中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性についても触れていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法）、地学で扱う内容 第2回：固体地球の概観（形と大きさ・内部構造・走時曲線） 第3回：地震（地震の分布・マグニチュードと震度） 第4回：火山活動と火成岩（火山の噴火・火山の分布・火成岩の分類） 第5回：堆積岩とその形成（地表の変化・堆積岩の分類） 第6回：地層と地質構造（地層累乗の法則・堆積構造・地質構造） 第7回：地球と生命の進化（地球の形成・顕生代） 第8回：大気の構造（大気の組成・気圧・層構造・水と気象） 第9回：太陽放射と大気の運動（太陽放射エネルギー・高気圧と低気圧・風の吹き方） 第10回：日本の天気（冬・春） 第11回：日本の天気（夏・秋） 第12回：太陽系の天体（太陽系の誕生・惑星の特徴・太陽系の小天体） 第13回：太陽（太陽の概観・太陽活動とエネルギー） 第14回：恒星（星の明るさ・恒星の色・恒星までの距離） 第15回：銀河系と宇宙（銀河系の構造・宇宙の大規模構造）</p>			
定期試験			
テキスト			
改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録（数研出版編集部／編、数研出版）			
小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメを配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 地学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井村 有里
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において地学分野の教育を実践するために必要となる、より確かな力を養うことをテーマとする。具体的には、地学に関する知識や法則理解を深めることを目標とする。また、小・中・高等学校における学びとの系統性や連続性に加え、他教科・他領域との関連性を意識できる力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中・高等学校段階で扱われる地学の内容を基本とし、より発展的な内容、地球の概観、地球の活動と歴史、地球の大気と海洋、宇宙の構造を講義形式で教授する。プレートテクトニクス、気象観測、太陽系天体の活動などの研究の歴史や方法について触れ、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、その中で、小学校を含めた校種間の学びの系統性や連続性、あるいは他教科・他領域との関連性についても触れていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法）、地球の観測</p> <p>第2回：プレートテクトニクス（海洋底の年代・プレート境界）</p> <p>第3回：地震（地震動の記録・プレート境界の地震・プレート内の地震）</p> <p>第4回：造山帯と変成作用（収束境界・変成岩）</p> <p>第5回：地質時代の組み立て（地層の対比・年代測定）</p> <p>第6回：地球と生命と環境の歴史（過去の気候・大量絶滅・生命の進化）</p> <p>第7回：地球のエネルギー収支（地球放射・温室効果・熱輸送）</p> <p>第8回：大気の大循環（大気にかかる力・世界の気象）</p> <p>第9回：天気図（高層天気図・季節の天気図）</p> <p>第10回：海洋と海水の運動（海洋の層構造・海流・深層循環）</p> <p>第11回：気候変動と地球環境（大気と海洋の相互作用・都市気候・地球温暖化）</p> <p>第12回：惑星の運動（地球の自転・地球の公転・ケプラーの法則）</p> <p>第13回：恒星の光と性質（等級・表面温度・HR図・恒星の大きさ）</p> <p>第14回：恒星の誕生と進化（恒星の観測・恒星の終末）</p> <p>第15回：宇宙の構造（星団・様々な銀河・ハッブルの法則）</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録（数研出版編集部／編、数研出版）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジユメを配付する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、各回の授業で課す課題（20%）

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井村 有里
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学実験（コンピュータ活用を含む。） ・「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>様々な地学実験に取り組む中で、学校現場において地学実験を自ら検討・実践していくための基盤となる力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の地学に関わる基本的な実験の手法および実験の意義を修得し、理科の見方・考え方を身に付けることを目標とする。また、多様な生徒や教職員が存在する学校現場で柔軟・円滑に教育活動を推進できるよう、ファシリテーション力を醸成することも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中・高等学校段階の地学に関わる比較的平易かつ重要な実験を扱い、その中で、小・中学校における学びの系統性や連続性などについても触れていく。地球科学分野では岩石や鉱物の観測、気象分野では水の状態変化や天気図、天文分野では太陽と月について、観測やデータの解析の方法を学ぶ。その際、より効果的に基本的な実験の手法および実験の意義を修得するため、個人単位で実験に取り組む時間を多く設ける。ファシリテーション力を醸成するために、各回における予測や結果に関する議論、あるいはグループでのオリジナル実験の企画・推進等、グループで活動する場面も多く取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、コンピュータを用いたデータ処理、レポートの書き方） 第2回：流水のはたらき、堆積構造 第3回：岩石の観察、火山岩の色指数の測定 第4回：火山灰の観察 第5回：大気の中ではたらく力 第6回：霧・雲のでき方 第7回：蒸発熱の測定 第8回：天気図の読み方・描き方 第9回：太陽の動きと黒点の観察 第10回：天体の動きと満ち欠け 第11回：グループでのオリジナル実験（グループ分け、テーマの検討、実験計画）</p>			

第12回：グループでのオリジナル実験（予備実験、本実験）

第13回：グループでのオリジナル実験（解析、まとめ、発表準備）

第14回：グループでのオリジナル実験（発表）

第15回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメや実験ワークシートは配付する。

学生に対する評価

課題レポート（80%）、グループ発表（20%）

授業科目名： 理科教材開発の理論と 実践（物理・化学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川 直也、仲野 純章
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中・高等学校教員として必要な知識や資質・能力の完習に向け、教材を主体的に開発しながら導入していける発展的な力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校における物理学・化学分野の授業に関して、有効な教材について考えを深め、自ら教材開発に取り組む意識や力を養うことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、物理学分野（前半）と化学分野（後半）に分けて進行する。それぞれにおいて、中・高等学校段階の理科教育では、どのような思想の下、どのように教材が改良・開発・利用されているかについて事例を交えながら講義する。その上で、中・高等学校段階の学習事項に関する簡易的な教材開発にも取り組み、互いに発表し合う実践的な演習も取り入れる。なお、授業では、適宜、小学校における学びとの関連性についても触れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、グループ分け）（担当：谷川直也、仲野純章）</p> <p>第2回：物理学分野の講義（物理学分野における理科教材開発の心構え）（担当：仲野純章）</p> <p>第3回：物理学分野のグループ演習（中学校（光・音・力による現象））（担当：仲野純章）</p> <p>第4回：物理学分野のグループ演習（中学校（電流の性質とその利用））（担当：仲野純章）</p> <p>第5回：物理学分野のグループ演習（中学校（運動とエネルギー））（担当：仲野純章）</p> <p>第6回：物理学分野のグループ演習（高等学校（波））（担当：仲野純章）</p> <p>第7回：物理学分野のグループ演習（高等学校（電気と磁気））（担当：仲野純章）</p> <p>第8回：物理学分野のグループ演習（高等学校（運動とエネルギー））（担当：仲野純章）</p> <p>第9回：化学分野の講義（化学分野における理科教材開発の心構え）（担当：谷川直也）</p> <p>第10回：化学分野のグループ演習（中学校（粒子の存在・粒子の結合））（担当：谷川直也）</p> <p>第11回：化学分野のグループ演習（中学校（粒子の保存性））（担当：谷川直也）</p> <p>第12回：化学分野のグループ演習（中学校（粒子のもつエネルギー））（担当：谷川直也）</p> <p>第13回：化学分野のグループ演習（高等学校（粒子の存在・粒子の結合））（担当：谷川直也）</p> <p>第14回：化学分野のグループ演習（高等学校（粒子の保存性））（担当：谷川直也）</p> <p>第15回：化学分野のグループ演習（高等学校（粒子のもつエネルギー））（担当：谷川直也）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメを配付する。

学生に対する評価

物理学分野の課題レポート（50%）、化学分野に関する課題レポート（50%）

授業科目名： 理科教材開発の理論と 実践（生物・地学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 将也、井村 有里 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中・高等学校教員として必要な知識や資質・能力の完習に向け、教材を主体的に開発しながら導入していける発展的な力を養うことをテーマとする。具体的には、中・高等学校における生物学・地学分野の授業に関して、有効な教材について考えを深め、自ら教材開発に取り組む意識や力を養うことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、生物学分野（前半）と地学分野（後半）に分けて進行する。それぞれにおいて、中・高等学校段階の理科教育では、どのような思想の下、どのように教材が改良・開発、利用されているかについて事例を交えながら講義する。その上で、中・高等学校段階の学習事項に関する簡易的な教材開発にも取り組み、互いに発表し合う実践的な演習も取り入れる。なお、授業では、適宜、小学校における学びとの関連性についても触れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、グループ分け）（担当：山本将也、井村有里）</p> <p>第2回：生物学分野の講義（生物分野における理科教材開発の心構え）（担当：山本将也）</p> <p>第3回：生物学分野のグループ演習（中学校（生物の観察））（担当：山本将也）</p> <p>第4回：生物学分野のグループ演習（中学校（動植物の体のつくりとはたらき））（担当：山本将也）</p> <p>第5回：生物学分野のグループ演習（中学校（自然と環境））（担当：山本将也）</p> <p>第6回：生物学分野のグループ演習（高等学校（遺伝子とその働き））（担当：山本将也）</p> <p>第7回：生物学分野のグループ演習（高等学校（生態系とその保全））（担当：山本将也）</p> <p>第8回：生物学分野のグループ演習（高等学校（進化の仕組み））（担当：山本将也）</p> <p>第9回：地学分野の講義（地学分野における理科教材開発の心構え）（担当：井村有里）</p> <p>第10回：地学分野のグループ演習（中学校（身近な地形や地層））（担当：井村有里）</p> <p>第11回：地学分野のグループ演習（中学校（天気の変化））（担当：井村有里）</p> <p>第12回：地学分野のグループ演習（中学校（地球の自転・公転））（担当：井村有里）</p> <p>第13回：地学分野のグループ演習（高等学校（地震の伝わり方））（担当：井村有里）</p> <p>第14回：地学分野のグループ演習（高等学校（大気の構造））（担当：井村有里）</p> <p>第15回：地学分野のグループ演習（高等学校（太陽系と恒星））（担当：井村有里）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

生物学分野のレポート（50%）、地学分野のレポート（50%）

授業科目名： 中等理科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川 直也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において授業設計・実践できる力量を高めるため、理科教育全般の基礎・基本の見方や考え方を身に付けることをテーマとする。具体的には日本の理科教育の目標、歴史 世界の理科教育、理科の授業と指導計画、学習指導案、理科の授業と教材研究・指導技術・評価、理科の授業と安全指導等について知識、理解を深め、理科の授業の指導計画、教材研究の作成の仕方を修得し、学習指導案の作成法の基礎・基本を身に付けることを目標とする。更には、情報通信技術の利点を適切に活かした授業設計・実践ができるよう、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深めることも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>理科教育全般について基礎・基本的な見方や考え方を教授する。授業は学習指導要領に基づいて行われるもので公権力の行使とも言われる。日本の理科教育の目標、活動、内容、評価等を歴史の変遷や世界的な流れの観点から教授し、環境・防災教育との関連についても教授する。さらに、理科の授業の指導計画、教材研究、学習指導案について教授する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：理科教育の目標 理科の目標 学校における理科教育</p> <p>第2回：日本の理科教育の歴史 戦前から戦時下の理科教育、戦後の理科教育</p> <p>第3回：現在の日本の理科教育 理科の学習指導要領はどのように変わってきたか 現行の中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領</p> <p>第4回：世界の理科教育 アメリカ・イギリス・ドイツの理科教育、理科の授業と健康教育 ナショナルカリキュラムと理科教育</p> <p>第5回：理科の授業と指導計画 指導計画作成のための基本的な考え方、指導計画作成の手順 指導計画作成までの具体例</p> <p>第6回：理科の授業と教材研究 教材研究の進め方、指導案の作成、指導の結果の検討と記録の作成</p> <p>第7回：理科の授業と観察・実験 観察と実験、生徒実験と演示実験、望ましい観察・実験とは</p> <p>第8回：理科の授業とICT 初期の情報機器、現在のICT機器、ICT機器や教材の利用上の留意点</p> <p>第9回：理科の授業と指導技術 導入、発問、板書、その他の指導技術（話し合い、記録ノート）</p> <p>第10回：理科の授業の実践 授業の計画と授業の進め方、授業を進める上での問題点とその対策</p> <p>第11回：理科の授業と安全指導 観察・実験と事故防止、危険を伴う実験と安全対策</p> <p>第12回：理科の授業と野外学習 野外学習の意義、野外学習の進め方、野外学習の問題点と対策</p>			

第13回：理科の授業と環境・防災教育 環境教育の目標、学習指導要領下での環境問題の取扱い
いろいろな場での環境教育、理科の授業と防災教育

第14回：理科の授業と評価 評価の機能、評価の観点、評価の手順、指導目標の分析と評価規準
評価の場面、評価の方法

第15回：理科の教育実習 教育実習の意義とねらい、理科の教育実習、教育実習生の態度、心構え
定期試験

テキスト

若い先生のための理科教育概論四訂（畑中忠雄著、東洋館出版社）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示、文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（40%）、課題（40%）、平常点（授業への取り組み等）（20%）

授業科目名： 中等理科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川 直也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において実際に授業設計・実践できる力量を高めることをテーマとする。具体的には、中・高等学校の授業づくりの基盤となる理論を習得し、実施可能な学習指導案を作成し、理論と実践をつなぐ模擬授業が実践できることを目標とする。更には、情報通信技術の利点を適切に活かした授業設計・実践ができるよう、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深めることも目標とする。</p>			
<p>授業の概要 中等理科教員としての心構え、教育実習では何が評価されるかを教授した上で、中・高等学校における理科の授業づくりの基盤として、教材論、教授・学習論、教育評価について教授する。それぞれの視点の理論的な側面を学習した後に、物理学、化学、生物学、地学の小中高の系統性を踏まえた実施可能な学習指導案の作成の仕方を教授する。受講者は学習指導案を作成し、理論と実践をつなぐ模擬授業を行い、相互評価を行う。なお、模擬授業では、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深める場ともするため、情報通信技術の活用を意識的に組み込んだ授業設計・実践を必須とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育実習では何が評価されるか 教育実習で育成が期待される資質・能力 教育実習で身に付けたい基本的な知識・理解 教育実習での評価を活かす方法</p> <p>第2回：教材論 学習指導要領、教育課程と教材との関わり、授業づくりと教材との関わり 教材開発について</p> <p>第3回：教授・学習論 授業づくりの軸の再確認、「展開のある」授業の組み立て、深い学びの実現</p> <p>第4回：教育評価 学校教育と教育評価の基本、教育評価の実際、教育評価の期待と課題</p> <p>第5回：授業の設計図としての学習指導案 学習指導案は何のために書くのか 学習指導案には何が書かれているか 実施可能な学習指導案づくり</p> <p>第6回：物理の系統的学びのねらいと授業構成 デジタル教科書、ICT活用の実践例を含む</p> <p>第7回：化学の系統的学びのねらいと授業構成 デジタル教科書、ICT活用の実践例を含む</p> <p>第8回：生物の系統的学びのねらいと授業構成 デジタル教科書、ICT活用の実践例を含む</p> <p>第9回：地学の系統的学びのねらいと授業構成 デジタル教科書、ICT活用の実践例を含む</p> <p>第10回：模擬授業① エネルギーの領域、相互評価を行う</p>			

第11回：模擬授業② 粒子の領域、相互評価を行う
 第12回：模擬授業③ 生命の領域、相互評価を行う
 第13回：模擬授業④ 地球の領域、相互評価を行う
 第14回：デジタル教科書、ICTを活用した模擬授業（エネルギー、粒子、生命、地球のいずれかの領域）、相互評価を行う
 第15回：まとめ 理論と実践をつなぐには何が必要か
 定期試験

テキスト

授業づくりのための中等理科教育法 不易と流行のエッセンス（山下芳樹・藤岡達也編著、ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示、文部科学省）

探究する新しい科学1（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学2（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

探究する新しい科学3（文部科学省検定済教科書 中学校理科用）（梶田隆章ほか著、東京書籍）

改訂 化学基礎（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

改訂 化学（文部科学省検定済教科書 高等学校理科用）（竹内敬人ほか著、東京書籍）

学生に対する評価

定期試験（40%）、指導案（40%）、模擬授業（20%）

授業科目名： 中等理科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 美子、仲野 純章 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校現場において実際に授業設計・実践できる力量を高めることをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の物理学・化学分野を対象に、中等理科教育法Ⅰ・Ⅱで習得した事項を踏まえながら、より実践的な観点から指導法を学び、学習指導案の作成と授業実践のための知識・技能を高めることを目標とする。また、その過程で、各分野への理解を深めることも目標とする。更には、情報通信技術の利点を適切に活かした授業設計・実践ができるよう、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深めることも目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>授業では、中学校段階で扱われる内容を主体としながら、高等学校段階で扱われる内容までを含み、授業設計・実践の力量を高めつつ、物理学・化学分野に関する専門性向上も促す。また、授業を進める中で、適宜、小・中・高等学校における学びの関連性についても触れる。学習指導案に関しては、個人で検討・構築する演習を重ねた後、グループで検討・構築し、その内容に基づき模擬授業に臨む実践的な演習を取り入れる。なお、模擬授業では、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深める場ともするため、情報通信技術の活用を意識的に組み込んだ授業設計・実践を必須とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、グループ分け）（担当：佐藤美子、仲野純章）			
第2回：様々な観点からの学習者理解（学習事項に対する印象、興味、既有概念）（担当：仲野純章）			
第3回：正しい概念形成に向けた支援：観察・実験・演示等の事実確認活動（担当：仲野純章）			
第4回：正しい概念形成に向けた支援：アーギュメント等のその他活動（担当：仲野純章）			
第5回：学習指導案の書き方、模擬授業における意識・態度・動作（担当：仲野純章）			
第6回：個人での学習指導案作成と交流（内容：中学校 物理学）（担当：仲野純章）			
第7回：個人での学習指導案作成と交流（内容：中学校 化学）（担当：佐藤美子）			
第8回：個人での学習指導案作成と交流（内容：高等学校 物理学）（担当：仲野純章）			
第9回：個人での学習指導案作成と交流（内容：高等学校 化学）（担当：佐藤美子）			
第10回：第1グループによる模擬授業（内容：中学校 物理学）（担当：仲野純章）			
第11回：第2グループによる模擬授業（内容：中学校 物理学）（担当：仲野純章）			
第12回：第3グループによる模擬授業（内容：中学校 化学）（担当：佐藤美子）			
第13回：第4グループによる模擬授業（内容：中学校 化学）（担当：佐藤美子）			

第14回：第5グループによる模擬授業（内容：高等学校 物理学）（担当：仲野純章）

第15回：第6グループによる模擬授業（内容：高等学校 化学）（担当：佐藤美子）

定期試験を実施する。

※第10～15回では、模擬授業の中に情報通信技術の活用を必ず組み込む。

※第10～15回の模擬授業テーマは、それぞれ前回の授業内にて課題提示する。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジュメを配付する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、指導案（30%）、模擬授業（20%）

授業科目名： 中等理科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 井村 有里、山本 将也 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場において実際に授業設計・実践できる力量を高めることをテーマとする。具体的には、中・高等学校段階の生物学・地学分野を対象に、中等理科教育法Ⅰ・Ⅱで習得した事項を踏まえながら、より実践的な観点から指導法を学び、（１）学習指導案の作成と授業実践のための知識・技能を高めること、（２）理科の教員になる上での自らの課題を見直し補完すること、（３）各分野の繋がりを理解することを目標とする。更には、情報通信技術の利点を適切に活かした授業設計・実践ができるよう、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深めることも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、中学校段階で扱われる内容を主体としながら、高等学校段階で扱われる内容までを含み、授業設計・実践の力量を高めつつ、生物学・地学分野に関する専門性向上も促す。また、授業を進める中で、適宜、小・中・高等学校における学びの関連性についても触れる。学習指導案に関しては、個人で検討・構築する演習を重ねた後、グループで検討・構築し、その内容に基づき模擬授業に臨む実践的な演習を取り入れる。また、理科の教員となる上で必要となる知識・理解に関して自らの課題を見直し、補完するためのグループディスカッションを行う。なお、模擬授業では、情報通信技術の効果的な活用法について理解を深める場ともするため、情報通信技術の活用を意識的に組み込んだ授業設計・実践を必須とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（担当：井村有里、山本将也）</p> <p>第2回：グループ討論（教員として必要な資質・能力についての意見交換と個人課題の設定）（担当：井村有里、山本将也）</p> <p>第3回：単元分析と学習指導案の作成（１）中学校 生物学分野（生物の構造と機能）（担当：山本将也）</p> <p>第4回：単元分析と学習指導案の作成（２）中学校 生物学分野（生命の連続）（担当：山本将也）</p> <p>第5回：単元分析と学習指導案の作成（３）高等学校 生物学分野（生物と環境の関わり）（担当：山本将也）</p> <p>第6回：単元分析と学習指導案の作成（４）中学校 地学分野（地球内部と地表面の変動）（担当：井村有里）</p> <p>第7回：単元分析と学習指導案の作成（５）中学校 地学分野（地球の大気と水の循環）（担当：井</p>			

村有里)

第8回：単元分析と学習指導案の作成（6）高等学校 地学分野（地球と天体の運動）（担当：井村有里）

第9回：模擬授業（1）中学校 生物学分野（生物の構造と機能）（担当：井村有里、山本将也）

第10回：模擬授業（2）中学校 生物学分野（生命の連続）（担当：井村有里、山本将也）

第11回：模擬授業（3）高等学校 生物学分野（生物と環境の関わり）（担当：井村有里、山本将也）

第12回：模擬授業（4）中学校 地学分野（地球内部と地表面の変動）（担当：井村有里、山本将也）

第13回：模擬授業（5）中学校 地学分野（地球の大気と水の循環）（担当：井村有里、山本将也）

第14回：模擬授業（6）高等学校 地学分野（地球と天体の運動）（担当：井村有里、山本将也）

第15回：グループ討論（個人課題に対する評価と今後の目標設定）（担当：井村有里、山本将也）

定期試験は実施しない。

※第9～15回では、模擬授業の中に情報通信技術の活用を必ず組み込む。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

指導案（30%）、模擬授業（40%）、最終レポート（30%）

授業科目名： 科学的探究の方法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷川直也、山本将也 担当形態：複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>科学とは、人類が長い時間をかけて構築してきたものであり、一つの文化として考えることができる。科学が、それ以外の文化と区別される基本的な条件としては、実証性、再現性、客観性などが考えられる。問題を科学的に解決するという事は、自然の事物・現象についての問題を、実証性、再現性、客観性などといった条件を検討する手続きを重視しながら解決することである。本講義では、科学的とはどういうことか、探究とはなにかをテーマとする。具体的には、科学的探究に関連する理論を実践的に理解する過程で（１）身のまわりの様々な現象を科学的な視点で捉えること、（２）科学の探究方法を習得すること、（３）対話・討論・発表を通してソーシャル・コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半は、科学的とはどういうことかについて、簡単な問題を通して理解し、ニセ科学といわれるもの、中学校・高等学校で学習した内容について、与えられた質問に対して科学的に説明できるか、を取り扱う。講義は、個人演習→班別協議→班別の発表→指導・助言のサイクルで行う。なお、実験は学生実験または演示実験、思考実験で行う。</p> <p>後半は、普段の生活の中や野外観察から生まれる問いを研究のテーマとして設定し、班別に科学的な探究活動（ミニ研究）を実践する。研究成果はレポートにまとめるとともに、発表して討論を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科学的とはどういうことか（担当：谷川直也）</p> <p>第2回：科学マジックの書籍に掲載されている現象の科学的根拠（担当：谷川直也）</p> <p>第3回：水とエタノールの混合後の体積は保存されるか（担当：谷川直也）</p> <p>第4回：日常生活でよく聞く科学用語の科学的根拠（担当：谷川直也）</p> <p>第5回：学校理科と日常生活（Ⅰ）沸騰石の役割（担当：谷川直也）</p> <p>第6回：学校理科と日常生活（Ⅱ）乾いた空気と湿った空気の重さ（担当：谷川直也）</p> <p>第7回：水の三態変化のグラフの見方・考え方の誤解（担当：谷川直也）</p> <p>第8回：研究のいろは（１）：テーマの探し方、文献の調査方法（担当：山本将也）</p> <p>第9回：研究のいろは（２）：実験計画の立て方、データの分析法（担当：山本将也）</p> <p>第10回：ミニ研究（１）研究テーマと仮説の設定（担当：山本将也）</p> <p>第11回：ミニ研究（２）文献調査と実験方法の検討（担当：山本将也）</p>			

第12回：ミニ研究（3）研究調査の実施（担当：山本将也）

第13回：ミニ研究（4）追加調査の実施とデータ分析（担当：山本将也）

第14回：ミニ研究（5）発表方法の検討（担当：山本将也）

第15回：ミニ研究（6）発表会（担当：谷川直也、山本将也）

定期試験は実施しない。

テキスト

各回において、必要なプリントを配付する。

参考書・参考資料等

科学的とはどういうことか（板倉聖宣著、仮説社）

学校に入り込むニセ科学（左巻健男著、平凡社新書）

99.9%は仮説 思い込みで判断しないための考え方（竹内薫著、光文社新書）

自然への挑戦 思考力のトレーニング（芦田浪久著、日本教育新聞社出版局）

学生に対する評価

各回の講義で課す課題や取り組み状況（60%）、発表・最終レポート（40%）

授業科目名： 生命と地球の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 将也
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>約40億年前に地球で誕生した生命は、地球の劇的な環境変化と絶えず相互作用を繰り返し、進化を遂げてきた。学習指導要領の改定に伴って進化の視点が重視されることとなったが、これは生命が持つ全ての特徴が進化的産物に他ならないからである。一方で、進化をはじめとするマクロ生物学の内容は十分に教科書で取り扱えておらず、理科の各領域との関連・接続も不透明と言わざるを得ない。そこで本授業では、生命・地球・環境の各領域を横断する視点で進化を学習することをテーマとし、（1）生命の進化についてより深く理解すること、（2）横断的な視点で自然現象を捉え、科学的な知識と理科の見方・考え方を養うことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半は生命と地球の歴史を概観しつつ、自然選択や集団遺伝学に基づく生物進化の理論を中心に講義を進める。後半は日本列島の形成史から現在の地勢と生物地理学的特徴を結びつけた上で、ヒトを含めた日本でみられる生物が辿ってきた歴史と現状、そしてこれから辿るであろう未来について、学際的な領域である系統地理学の研究で得られた最新の知見から考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：地球の誕生と変遷（原始地球の形成過程、全球凍結や大酸化事件などの環境変化について）</p> <p>第3回：生命の誕生と進化（生命の起源に関する理論および真核生物誕生への道筋）</p> <p>第4回：進化のしくみ（進化の総合説と分子進化の中立説について）</p> <p>第5回：系統樹から紐解く生命進化（生物の進化的関係を示す系統樹の見方を理解する）</p> <p>第6回：集団の進化（生物進化の基礎理論となっている集団遺伝学について）</p> <p>第7回：種分化（生物学的種概念、種分化のモードとテンポについて）</p> <p>第8回：日本列島の地勢と生物地理学的特徴</p> <p>第9回：日本列島の形成史（1）観音開きモデル説とフォッサマグナについて</p> <p>第10回：日本列島の形成史（2）中央構造線と付加体について</p> <p>第11回：系統地理学の基礎（生物の遺伝的変異の地理分布に基づいて集団の歴史を理解する）</p> <p>第12回：植物の系統地理学（主に高山植物や海浜植物で行われた研究成果を紹介する）</p> <p>第13回：動物の系統地理学（哺乳類や昆虫で行われた研究成果を紹介する）</p> <p>第14回：水生生物の系統地理学（魚類や藻類で行われた研究成果を紹介する）</p> <p>第15回：ヒトの系統地理学（日本人の起源や成り立ちについて、最新の研究成果を紹介する）</p>			

定期試験
テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 適宜参考資料を配付する。
学生に対する評価 定期試験（80％）、各回の授業後に課す課題（20％）

授業科目名： 地域と生活の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲野 純章
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域や生活に目を向け、教育活動に取り込んでいく姿勢が益々求められている。本授業では、地域や生活の中にある様々な素材（社会的資源、社会的課題等）の中でも「科学」的な素材に着目し、理科・科学教育と関連づけていくための素養を養うことをテーマとする。具体的には、地域や生活の様々な場面で科学がどのように関わっているのかについて事例を通して学び、STEAM教育視点に立って、中・高等学校段階の理科で扱う幅広い領域を意識しながら物事を横断的に捉える力を養うことを目標とする。また、地域や生活の中にある「科学」的な素材を中・高等学校段階の理科・科学教育へ具体的に関連づける科学的思考力・判断力・企画力を養うことも目標とする。更には、グループで企画に取り組む活動を通じて、ファシリテーション力を養うことも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地域や生活の様々な場面で科学がどのように関わっているのかについて、中・高等学校段階の理科・科学教育との関連性についても言及しながら例示的に講義する。また、地域や生活の中にある科学を取り入れた理科・科学教育の事例についても講義する。その上で、物理学、化学、生物学、地学の各分野について、指定した単元・学習事項に対して地域や生活の中にあるどのような科学的素材を活用できるかをグループで検討（試作、試行、フィールドワーク等の実動まで至ることを推奨）し、企画内容を発表し合う、実践的な演習も取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法、グループ分け）</p> <p>第2回：地域や生活と関連づけた理科・科学教育の必要性と意義</p> <p>第3回：地域や生活の中にある科学を取り入れた理科・科学教育例</p> <p>第4回：地域や生活の中にある科学：「都市」編</p> <p>第5回：地域や生活の中にある科学：「産業」編</p> <p>第6回：地域や生活の中にある科学：「自然」編</p> <p>第7回：物理学分野に関するグループ演習（課題の提示、方向性の検討、調査）</p> <p>第8回：物理学分野に関するグループ演習（学生による企画内容の発表）</p> <p>第9回：化学分野に関するグループ演習（課題の提示、方向性の検討、調査）</p> <p>第10回：化学分野に関するグループ演習（学生による企画内容の発表）</p> <p>第11回：生物学分野に関するグループ演習（課題の提示、方向性の検討、調査）</p>			

第12回：生物学分野に関するグループ演習（学生による企画内容の発表）

第13回：地学分野に関するグループ演習（課題の提示、方向性の検討、調査）

第14回：地学分野に関するグループ演習（学生による企画内容の発表）

第15回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジユメを配付する。

学生に対する評価

課題レポート（50%）、グループ発表（50%）

授業科目名： 理科クロスカリキュ ラム研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井村 有里
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の下、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成することが求められている。本授業では、学生に物事の多様な切り口を示し、自然・科学への興味・関心をもたせるために、幅広い理科の知識と理科の見方・考え方を養うことを目標とする。また、多様な人々と協働で課題解決を図る、横断的なファシリテーションの力を醸成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>はじめに理科で用いる計算・表現を示し、他教科で学習した内容を理科の中で捉え直す。その後、小・中・高等学校段階の他教科の題材を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考える。最後に、他教科の見方・考え方を踏まえつつ、既習の内容や生活経験を基に、科学的な根拠のある予想や仮説を発想し、題材をより深く読み解くことができる教材を考案し、発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（科目趣旨、評価方法）、理科で用いる算数</p> <p>第2回：理科で用いる数学</p> <p>第3回：理科で用いる文章表現</p> <p>第4回：理科からみる文学</p> <p>第5回：理科からみる英語</p> <p>第6回：理科からみる環境問題</p> <p>第7回：理科からみる家庭科</p> <p>第8回：理科からみる体育</p> <p>第9回：理科からみる音楽</p> <p>第10回：古文書にみる自然災害</p> <p>第11回：理科から見る歴史</p> <p>第12回：グループ分け、課題設定</p> <p>第13回：発表準備</p> <p>第14回：グループ発表</p>			

第15回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

各回において、必要なレジユメを配付する。

学生に対する評価

課題レポート（50%）、グループ発表（50%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊井 直比呂 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 私たちの生活における憲法の位置づけ。また人権と教育との関係。さらに教育関係法令との関係が説明できることを目標とする。			
授業の概要 憲法の人類的な意義とその思想について概観したあと、憲法が保障する人権について解説し、それらがどのように教育と結びついているかなどについて解説する。また、統治機構については教育行政との関係について解説する。			
授業計画 第1回：憲法の歴史と意義 第2回：大日本帝国憲法と日本国憲法の違い（特に法の支配について） 第3回：憲法13条「個人の尊厳」、14条「法の下での平等」の意義 第4回：人権規定（自由権）の構造と国家との関係 第5回：人権規定（社会権）の構造と国家との関係 第6回：憲法26条「教育を受ける権利」の意義と学習権 第7回：憲法26条の「能力に応じて」の解釈の歴史と今日的解釈 第8回：学校教育での具体的事件（信教の自由）と憲法（ディスカッション含む） 第9回：学校教育での具体的時間（生徒の妊娠）と憲法（ディスカッション含む） 第10回：憲法における統治機構の構造 第11回：法の支配と教育行政 第12回：法治主義と教育行政 第13回：学校教育での具体的事例（長期入院児童生徒の教育）と憲法（ディスカッション含む） 第14回：学校教育での具体的事例（学生からのリクエスト問題をもとにして） 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 井上典之著 『憲法の時間』（有斐閣）			
参考書・参考資料等 講義中適宜指示する			
学生に対する評価 最終レポート（50%）、平常点（50%）（中間レポート、ディスカッションレポート等）			

授業科目名： スポーツ I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 伊達 由実、東 隆史、 吉田 康成
			担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) スポーツの実践を通して健康的な学生生活を送ることによって、スポーツを取り入れた健康増進法や人間関係の構築を実践することができる。</p> <p>2) 生涯にわたって主体的にスポーツを楽しむための知識・技能・態度・行動力を習得し、実生活で活用することができる。</p>			
授業の概要			
<p>複数開講されるスポーツ種目から、学生がそれぞれの体力・興味・個性に応じた種目を選択し、種目特性に根ざした運動の楽しさを体験できるようゲームの実施を中心とした授業計画を作成する。授業形式は実技を中心とするが、他者との協力を促したりチーム作りを進めるためにグループ学習を適宜取り入れる。なお、一人の教員が一種目を担当する。実施種目、受講人数制限については掲示して告知する。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：種目選択およびグループ分け</p> <p>第 2 回：各種目の基本練習 ルール理解と試しのゲーム</p> <p>第 3 回：各種目の基本練習 基本技術と試しのゲーム</p> <p>第 4 回：各種目の基本練習 応用技術と試しのゲーム</p> <p>第 5 回：各種目の基本練習 戦術理解と試しのゲーム</p> <p>第 6 回：各種目の応用練習 基礎技術重視の練習内容と確認のゲーム</p> <p>第 7 回：各種目の応用練習 守備的技術重視の練習と確認のゲーム</p> <p>第 8 回：各種目の応用練習 攻撃的技術重視の練習と確認のゲーム</p> <p>第 9 回：各種目の応用練習 守備的戦術と確認のゲーム</p> <p>第 10 回：各種目の応用練習 攻撃的戦術と確認のゲーム</p> <p>第 11 回：各種目のリーグ戦 上下リーグの振り分け戦</p> <p>第 12 回：各種目のリーグ戦 上級リーグ戦・下級リーグ戦</p> <p>第 13 回：各種目のリーグ戦 上下入れ替え戦</p> <p>第 14 回：各種目のリーグ戦 新上級リーグ戦・新下級リーグ戦</p> <p>第 15 回：最終リーグ戦（優勝決定戦）とまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
授業中に適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜示す。			
学生に対する評価			
実技点（40％）、平常点（60％）			

授業科目名： スポーツⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 伊達 由実、東 隆史、 吉田 康成
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) スポーツの実践を通して健康的な学生生活を送ることによって、スポーツを取り入れた健康増進法や人間関係の構築を実践することができる。</p> <p>2) 生涯にわたって主体的にスポーツを楽しむための知識・技能・態度・行動力を習得し、実生活で活用することができる。</p>			
授業の概要			
<p>複数開講されるスポーツ種目から、学生がそれぞれの体力・興味・個性に応じた種目を選択し、種目特性に根ざした運動の楽しさを体験できるようゲームの実施を中心とした授業計画を作成する。授業形式は実技を中心とするが、他者との協力を促したりチーム作りを進めるためにグループ学習を適宜取り入れる。なお、一人の教員が一種目を担当する。実施種目、受講人数制限については掲示して告知する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：種目選択およびグループ分け</p> <p>第2回：各種目の基本練習 ルール理解と試しのゲーム</p> <p>第3回：各種目の基本練習 基本技術と試しのゲーム</p> <p>第4回：各種目の基本練習 応用技術と試しのゲーム</p> <p>第5回：各種目の基本練習 戦術理解と試しのゲーム</p> <p>第6回：各種目の応用練習 基礎技術重視の練習内容と確認のゲーム</p> <p>第7回：各種目の応用練習 守備的技術重視の練習と確認のゲーム</p> <p>第8回：各種目の応用練習 攻撃的技術重視の練習と確認のゲーム</p> <p>第9回：各種目の応用練習 守備的戦術と確認のゲーム</p> <p>第10回：各種目の応用練習 攻撃的戦術と確認のゲーム</p> <p>第11回：各種目のリーグ戦 上下リーグの振り分け戦</p> <p>第12回：各種目のリーグ戦 上級リーグ戦・下級リーグ戦</p> <p>第13回：各種目のリーグ戦 上下入れ替え戦</p> <p>第14回：各種目のリーグ戦 新上級リーグ戦・新下級リーグ戦</p> <p>第15回：最終リーグ戦（優勝決定戦）とまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
授業中に適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜示す。			
学生に対する評価			
実技点（40％）、平常点（60％）			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ロバート ケリガン、 孫工 季也
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 音声的・視覚的に提示された英語の情報を英語として理解し、様々な状況で必要なコミュニケーション技術を獲得する。			
授業の概要 英語の 4 技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の基本を、総合的にのばすことをめざす授業である。リスニングやリーディングを通して、基礎的な文法や語彙を再点検し、双方向のコミュニケーションに積極的に参加することにより、将来的に学問的・職業的に役立つ英語運用能力を育成する。			
授業計画 第1回：Introduction + course outline コースの紹介 第2回：Unit 1: Talking about where people are from and what they do 人の出身地や娯楽について話す 第3回：Unit 1: Discussing people's names and jobs 人の名前と仕事について話し合う 第4回：Unit 2: Identifying family members 相手の情報について尋ねる 第5回：Unit 2: Giving information about family and friends 家族と友達についての情報を伝える 第6回：Unit 3: Talking about clothes and possessions 服と持ち物について話す 第7回：Unit 3: Describing favorite possessions 気に入りの持ち物について述べる 第8回：復習 Units 1, 2, & 3 第9回：Unit 4. Inquiring and explaining about routines 習慣について尋ねる・話す 第10回：Unit 4. Describing weekend activities 週末の活動について会話をする 第11回：Unit 5. Accepting and declining help 手伝いの受け入れと断り 第12回：Unit 5. Discussing leisure activities レジャー活動について話し合う 第13回：Unit 6. Identifying and talking about jobs 仕事について聞き取る・話す 第14回：Unit 6. Describing talents and abilities 才能と能力について話し合う 第15回：Review and performance task 復習 (Units 4, 5, & 6) とパフォーマンス課題 定期試験は実施しない。			
テキスト Four Corners 1: Second edition. Cambridge University Press. ISBN: 978-1009285971.			
参考書・参考資料等 講義中適宜指示する			
学生に対する評価 毎週の評価：平常点：参加の態度、宿題、適切な教科書・参考文献の持参、授業課題、英語の利用 (70%)、Open assessment (10%)、Performance task (20%)、Review task (10%)			

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ロバート ケリガン、 孫工 季也 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 音声的・視覚的に提示された英語の情報を、英語として理解し、日常生活に必要なコミュニケーション技術を獲得します。			
授業の概要 英語の4技能(リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング)を、総合的にのばすことをめざす授業です。リスニングやリーディングを通して、基礎的な文法や語彙を再点検し、双方向のコミュニケーションに積極的に参加することにより、英語運用能力を育成します。			
授業計画 第1回：Introductions + course outline コースの紹介 第2回：Unit 7: Describing likes and dislikes 好きなこと・嫌いなことを表現する 第3回：Unit 7: Talking about eating habits 食習慣について話す 第4回：Unit 8: Giving the locations of neighborhood places 近所の場所について述べる 第5回：Unit 8: Presenting on a city attraction 街の魅力について発表する 第6回：Unit 9. Describing what people are doing these days このごろ人がしていることについて述べる 第7回：Unit 9: Practicing telephone conversations 英語で電話応対の導入 第8回：復習 Units 7, 8, & 9 第9回：Unit 10. Describing their weekend 先週末の活動について話す 第10回：Unit 10. Talking about routines in the past 前の習慣について尋ねて話す 第11回：Unit 11. Reacting to news ニュースに反応する 第12回：Unit 11. Describing previous vacation experiences 前の旅行について述べる 第13回：Unit 12. Accepting and declining invitations 招待の受け入れと辞退 第14回：Unit 12. Discussing and agreeing on plans 計画について話し合う・決める 第15回：Review and performance task 復習 (Units 10, 11, & 12)とパフォーマンス課題 定期試験は実施しない。			
テキスト Four Corners 1: Second edition. Cambridge University Press. ISBN: 978-1009285971.			
参考書・参考資料等 講義中適宜指示する。			
学生に対する評価 毎週の評価：平常点：参加の態度、宿題、適切な教科書・参考文献の持参、授業課題、英語の利用(70%)、Open assessment(10%)、Performance task(10%)、Review task(10%)			

授業科目名： 情報処理演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 間辺 広樹、本多 佑希
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 情報社会の常識やコンピュータの基本操作、ソフトウェアの操作などを学び、情報機器を効率的に活用できるようになる。			
授業の概要 情報リテラシーやモラルなど、情報社会の常識を学ぶとともに、文書作成を始めとするオフィスソフトや、情報を適切に処理し分析する能力、コンピュータ原理を学ぶためにプログラミングなどを、コンピュータを使った演習形式で学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（情報と問題解決） 第2回：パソコンの仕組みと情報のデジタル化 第3回：情報モラルと情報セキュリティ 第4回：情報システム（ネットワークとデータベース） 第5回：オフィスソフトの活用 第6回：情報デザインと情報保障 第7回：ワープロソフトによる文書の作成 第8回：表計算ソフトの活用1（基本操作、関数） 第9回：表計算ソフトの活用2（データの操作と分析） 第10回：プログラミングによるデータの収集と分析 第11回：時系列データの分析 第12回：画像データの分析 第13回：プレゼンテーション実習 1 第14回：プレゼンテーション実習 2 第15回：プレゼンテーション実習 3 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業回ごとに資料を配布する			
参考書・参考資料等 イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル（noa出版著・編集、noa出版）			
学生に対する評価 提出物（60%）、小テスト（レポート）（40%）			

授業科目名： 情報処理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 間辺 広樹、本多 佑希
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
ソフトウェアの活用法やプログラミングを学ぶことで、問題や状況に応じて適切な手法やソフトウェアを選択し、解決できるようになる。			
授業の概要			
目的に応じたソフトウェアを活用しながら、コンピュータ科学や情報システム、動画編集などを学習する。また、プログラミングやデータの分析・活用について、プログラミングなどを交えながら演習形式で学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、スマホセンサを活用するゲーム開発			
第2回：プログラミングによる音楽演奏			
第3回：Pythonによるプログラミング（入出力）			
第4回：Pythonによるプログラミング（分岐構造）			
第5回：Pythonによるプログラミング（反復構造）			
第6回：プログラミングによるデータ処理			
第7回：AIの活用（顔認識プログラムの作成）			
第8回：データサイエンスの応用（検定、クラスタリング、時系列分析など）			
第9回：データサイエンスの実践（仮説と議論）			
第10回：データサイエンスの実践（データの収集）			
第11回：データサイエンスの実践（可視化と分析）			
第12回：プレゼン資料作成と動画制作			
第13回：動画編集ソフトウェアの活用			
第14回：プレゼン動画の発表会			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
動画配信やプリント配付で対応する。			
参考書・参考資料等			
講義中、適宜指示する。			
学生に対する評価			
提出物（60%）、小テスト（レポート）（40%）			

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高松（森）みどり
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①教員を目指すために、授業に積極的に参加し、熱心に取り組んでいる。</p> <p>②教育や人間形成に関する幅広い事象について、哲学的・歴史的な基礎知識を有している。</p> <p>③授業で得た知見をもとに、教育に関する実践的・応用的な考察が行えるようになる</p>			
授業の概要			
<p>教育の歴史及び現代的課題について、文献や視聴覚教材などを用いて考察し講義を行う。その際、個人差や多様な子どものニーズが、哲学的・歴史的にどのように語られてきたのかという観点からも検討する。また、受講者には主体的・積極的な授業への参加を求め、発表やグループワークなどを行う場合もある。</p>			
授業計画			
<p>第1回 教育の歴史や思想について学ぶ意味は何か</p> <p>第2回 学校とは何か① 近代教育制度の成立と展開</p> <p>第3回 学校とは何か② 日本における近代教育制度の受容と展開の歴史</p> <p>第4回 学校とは何か③ 戦前の教育と戦後教育改革を思想的に検討する</p> <p>第5回 近代教育思想について① 子ども・学校・教師・社会の関係</p> <p>第6回 近代教育思想について② コメニウス・フレーベル・ペスタロッチの教育思想と現代の教育</p> <p>第7回 近代教育思想について③ 近代公教育と多様な教育思想</p> <p>第8回 子ども観の成立：ルソーの思想と現代</p> <p>第9回 日本における子ども観の歴史</p> <p>第10回 学校における教師の役割① グループワーク「教師の役割とは？」</p> <p>第11回 学校における教師の役割② 「学びの思想」：知識の伝達とコミュニケーション</p> <p>第12回 教育の基礎概念としての「いのち」：「いのちの教育」の歴史と思想</p> <p>第13回 子ども・教師・学校・家庭の関係の現在：教育を成り立たせる現代の関係性</p> <p>第14回 教育の現代的諸課題と人間形成</p> <p>第15回 授業の総括および確認テスト</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			
教育原理（島田和幸・高宮正貴編著、ミネルヴァ書房）			

参考書・参考資料等

教育原理（香川七海・福若真人・蒲生諒太編著、七猫社）

（※大学図書館にて貸借可能である）

ほか、講義中に適宜指示する。

学生に対する評価

確認テスト（50%）、課題（35%）、平常点（15%）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅田 昇平、和田 良彦 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、教員志望の受講者が教職の意義や教員の役割、職務内容に関する知識の修得を通じて自身の教員像を明確にするとともに、教職を選択することの判断に資すること、教員としての資質能力の基礎を形成することを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>(1) 教職の意義、教員の役割を理解する。 (2) 法令等の規定を理解し、教員の職務内容を理解する。 (3) 教育実習に参加するまでの活動計画を確立する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：教職観 社会は教員をどう見ているか 第3回：求められる教員の資質能力（1）普遍的に求められる資質能力（不易） 第4回：求められる教員の資質能力（2）現在求められる資質能力（流行） 第5回：適性を考える（1）相互批評による長所と短所の自覚 第6回：教職員の種類と資格 第7回：教員の任用、監督、給与負担 第8回：教員の研修 第9回：教員の身分保障（1）服務 第10回：教員の身分保障（2）分限・懲戒 第11回：教員の身分保障（3）教員の勤務条件、職員団体 第12回：日米の教員の職務の比較 第13回：「チーム学校」の展開と教員 第14回：適性を考える（2）教員にふさわしい能力を育てるために4年間ですべきこと 第15回：どのような教員を目指すのか 教職への意思の確認と以降の活動計画の作成 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>各回に資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義中適宜指示する</p>			

学生に対する評価

最終レポート30%、課題40%、平常点（授業への参加度）30%

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：浅田 昇平 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目では、教員を目指す学生にとって必須である「教育制度」の全体構造とその諸課題を扱う。具体的には、公教育の歴史と制度、公教育の政策と法制、教育行政の組織と機能、学校経営の組織と機能について概説する。</p> <p>また、多様な社会的背景を持った子どもへの対応を含めて、学校と地域の連携の意義と協働の具体的事例、学校安全への対応について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>(1) 公教育の歴史的展開を踏まえて日本の教育制度を理解する。 (2) 教育行政、学校経営の組織と機能を理解する。 (3) 教員の職務、教育活動と教育行政、学校経営との関わりを理解する。 (4) 学校と地域の連携の意義と協働の具体的事例を理解する。 (5) 学校安全への対応について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：日本の公教育の展開（1）近代公教育制度の成立・確立 第3回：日本の公教育の展開（2）戦後教育改革 第4回：日本の公教育の展開（3）戦後日本社会の変容と公教育制度 第5回：教育行政の全体構造と中央教育行政組織 第6回：教育行政の地方分権と教育委員会制度 第7回：教職員制度と人事行政 第8回：教育内容行政と指導行政 第9回：学校経営の組織構造 第10回：学校教育目標と教育課程経営 第11回：地域社会、保護者との連携と学校参加 第12回：学校評価・教職員評価と学校改善 第13回：学校安全への対応（1）概要 第14回：学校安全への対応（2）具体的な取り組み事例 第15回：総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

各回で授業用資料を配付する。

参考書・参考資料等

講義中適宜指示する

学生に対する評価

最終レポート30%、課題40%、平常点（授業への参加度）30%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丹羽 智美、勝間 理沙
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 発達や学習のプロセスや仕組み、その個人差について基礎的な知識を持つことができる</p> <p>② 知識を使って個別の現象のメカニズムを読み解くことができる</p> <p>③ 知識を子ども理解や支援に実践的に活用することができる</p>			
授業の概要			
<p>教員になる者には、発達過程や人間の一般的な学習パターン、平均的な反応パターンの知識と同時に、多様性や個人差を生み出す仕組みを理解する視点が必要である。それらを踏まえて学習指導や生徒指導は行われていることを知り、基礎的な知識を持つこと、それらを使って1人1人の子どもの内面や子どもの行動の意味を理解し、どうすることが最適かを考え、判断できる基礎的な力の形成を目指す。また、それを自分の考えだけで止めず、他者と意見を交換することによってより広がりを持つことも目指す。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：発達や学習メカニズムを理解する意味			
第2回：遺伝と環境の相互作用：子どもの多様な素質と学習			
第3回：遺伝と環境の相互作用：子どもが育つ多様な環境と個性			
第4回：発達過程と個人差：認知発達に伴う自己形成、自尊感情の変化			
第5回：発達過程と個人差：他者視点取得と道徳性			
第6回：発達過程と個人差：青年期の身体変化と自我発達			
第7回：学習プロセス：連合説による学習過程			
第8回：学習プロセス：認知説による学習過程			
第9回：動機づけ：自己決定理論による学習意欲			
第10回：動機づけ：自律的動機づけによる学習意欲			
第11回：教授方法：学習方法と発達支援			
第12回：教授方法：学習方法と学級集団づくり			
第13回：教育評価：評価の意味と多様な評価指標			
第14回：教育評価：測定するものさしの妥当性、信頼性			
第15回：学級集団と個人：集団の中の個人のあり方と発達課題			
定期試験			
テキスト			

特に指定しない。必要な資料は授業内で配付する。

参考書・参考資料等

学校現場で役立つ教育心理学 教師をめざす人のために（藤原和政・谷口弘一（編著）、北大路書房）

学生に対する評価

小レポートや課題などの平常点（40％）、定期試験（60％）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長澤 洋信 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各障害にある特性をふまえ、特別な教育的ニーズのある児童生徒の指導や支援のあり方について理解する。特別支援教育にある制度の理念や仕組みと共に、多様な学びの場で展開する特別支援教育の現状と課題について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の対象となる児童生徒の障害特性等について具体的に取り上げ、特別な教育的ニーズがある児童生徒を支援するための方法や考え方を、事例とともに説明する。 ・インクルーシブ教育システム等の特別支援教育にある制度の理念や仕組みを概説し、多様な学びの場（通常の学級、特別支援学級、特別支援学校等）において展開する特別支援教育の現状と課題を説明する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・「障害」に対する理解と考え方 第2回：障害のある児童生徒を支援する視点と考え方 第3回：特別支援教育の基本的理解 第4回：障害者差別解消法等の自立と社会参加に向けた動向 第5回：インクルーシブ教育システムの理念と仕組み 第6回：特別支援教育における教育課程編成と学習指導要領 第7回：個別の教育支援計画と個別の指導計画 第8回：特別支援教育における指導と支援の基本 第9回：特別支援教育の実際① 知的障害 第10回：特別支援教育の実際② 病弱・肢体不自由 第11回：特別支援教育の実際③ 視覚障害・聴覚障害 第12回：特別支援教育の実際④ 発達障害の理解 第13回：特別支援教育の実際⑤ 発達障害に対する支援 第14回：特別支援教育の実際⑥ 様々な学びの場における工夫 第15回：まとめと確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>特別支援教育の授業の理論と実践 合理的配慮からユニバーサルデザインの授業づくりへ 通常学校編（富永・須田他 編著、あいり出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜、プリント等を配付</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度（70%）、確認テスト（30%）</p>			

授業科目名： 教育課程総論（小・中・高・養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木原 俊行、福本 義久 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育課程の編成を決定する基本的要因、教育課程を構成する要素、教育課程を編成する基本原則に関する基本的知見を理解し、それらを踏まえつつ、教育課程や教育実践を分析・批評し、また実際に構想できるようにする。</p> <p>上記項目について、</p> <p>(1) 本授業に真摯に取り組み、参加できる。</p> <p>(2) 本授業の基礎的内容について説明できる</p> <p>(3) 本授業の内容を踏まえ、実践的・応用的な考えや意見を表現できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>一般に人格と学力の計画と言われる教育課程の意義と編成の原理・方法について検討する。教育課程編成の歴史や事例の分析を通して、教育課程を決定する基本的要因、教育課程を構成する要素、教育課程を編成する基本原則について検討し、教育課程や教育実践の分析と批評、開発のための力量を育む。</p> <p>その際、新学習指導要領が求めるように、生涯教育の視点から児童・生徒の発達をとらえたり、様々なニーズや特別な配慮を要する児童・生徒への理解と支援の在り方を工夫したりすることを中核に据えた「カリキュラム・マネジメント」ができるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程総論を学ぶ意義と目的</p> <p>第2回：教育課程（カリキュラム）とは何か</p> <p>第3回：新学習指導要領の理念を検討する</p> <p>第4回：教育課程編成の社会的決定 — 学習指導要領の内容はどのように決められてきたのか</p> <p>第5回：社会の変化と教育課程 — 現代的課題をどのように位置づけるか</p> <p>第6回：社会の変化と教育課程 — ヒドゥン・カリキュラム</p> <p>第7回：子どもの変化と教育課程 — わが国の教育の今昔と海外の教育との比較から</p> <p>第8回：学習指導要領はどのように変遷してきたのか（前半）</p> <p>第9回：学習指導要領はどのように変遷してきたのか（後半）</p> <p>第10回：教育課程の編成主体とは誰か（教育課程編成事例の検討1）</p> <p>第11回：学校における教育課程編成の手法（教育課程編成事例の検討2）</p> <p>第12回：単元を構想する — 自分の教えたいことから</p>			

第13回:単元を構想する ―教科内容研究から

第14回:単元構想を検討する (全体発表)

第15回:教育課程を評価する ―カリキュラム・マネジメント

テキスト

小学校学習指導要領 (最新版) (文部科学省、東洋館出版社)

中学校学習指導要領 (最新版) (文部科学省、東山書房)

高等学校学習指導要領 (最新版) (文部科学省、東山書房)

参考書・参考資料等

適宜配付・指示する。

学生に対する評価

毎時間のワークシート (小レポート等) 平常点 (70%)、定期試験 (30%)

授業科目名： 道徳教育の理論と方法（小・中・養）	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：杉中 康平 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>自己の（人間としての）生き方についての考えを深める道徳教育の指導法</p> <p>① 本授業に積極的に参加し、熱心に取り組むことができる。</p> <p>② 道徳教育の意義と必要性を理解し、説明できる。</p> <p>③ 学校における道徳教育の指導力を身に付け、表現できる。</p>			
授業の概要			
<p>・ 諸外国の道徳教育や我が国の道徳教育の歴史に学びながら、学校における道徳教育の意義と目標、内容について理解するとともに、道徳の時間の指導過程や道徳資料の分析、発問の工夫等の具体的な指導法と家庭・地域と連携しながら学校の教育活動全体で道徳教育を推進する指導体制について学び、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション「道徳」とは？</p> <p>第2回：現代の子どもたちの課題と学校における道徳教育の意義</p> <p>第3回：子どもの心の成長と道徳性の発達</p> <p>第4回：諸外国と我が国の道徳教育の歴史</p> <p>第5回：道徳科の目標と内容項目</p> <p>第6回：道徳科の授業展開と学習指導案の作成（理論）</p> <p>第7回：道徳科の授業展開と学習指導案の作成（実践）</p> <p>第8回：道徳科の授業づくり①－主として自分自身に関すること－</p> <p>第9回：道徳科の授業づくり②－主として人との関わりに関すること－</p> <p>第10回：道徳科の授業づくり③－主として集団や社会との関わりに関すること－</p> <p>第11回：道徳科の授業づくり④－主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること－</p> <p>第12回：情報モラルと道徳教育（道徳科授業におけるICT機器の活用を含む）</p> <p>第13回：道徳科における評価の意義と方法</p> <p>第14回：道徳教育の全体計画と年間指導計画</p> <p>第15回：学校の教育活動全体で推進する道徳教育の在り方～道徳教育推進教師の役割～</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：対話的で深い学びのある道徳科の授業をつくる（牧崎幸夫他編著、ミネルヴァ書房）			

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月告示 文部科学省）
- ・ その他、講義中適宜指示する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、小レポート（40%）、

授業科目名： 特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (小中高養)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原田 三朗 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ・本授業に積極的に参加し、熱心に取り組んでいる。 ・「総合的な学習の時間」及び「特別活動」を、計画・立案し、実践するための基本的な理念を理解している。 ・「総合的な学習の時間」と「特別活動」の授業を実施するための基礎的な知識・技能を身に付けている。			
授業の概要 前半に総合的な学習の時間について、後半に特別活動について学修する。最初に目標及び内容について学んだ後、実践事例等について検討をする。総合的な学習の時間については、テキストを活用し、そこに紹介されている実践を丁寧に読み進める中で、具体的に総合的な学習の時間の意義を捉える。特別活動については、改定の趣旨や目標等、基礎となる理念を学んだ上で、具体的事例を用いて、全体計画や学級活動等の計画について学ぶ。また、特別活動については、できるだけ現場の教師の声を聞き、特別活動と関連の深い学級経営などについても学ぶことができるようにする。			
授業計画 第1回：総合的な学習の意義と創設の趣旨とこれまでの変遷 第2回：総合的な学習の目標と内容、探究課題 第3回：育てたい子ども像、手立て、単元構想（実践事例の検討1） 第4回：実際の活動の様子と子どもの変容（実践事例の検討2） 第5回：教師の手立てと具体的な評価（実践事例の検討3） 第6回：各教科との関連と主体的・対話的で深い学びの実現（実践事例の検討4） 第7回：単元指導計画の作成 第8回：特別活動の目標と全体計画 第9回：3つの活動と学校行事の計画と主な内容 第10回：学級活動・学級経営についての特質と意義 第11回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と意義 第12回：学級活動・学級経営に関する具体的実践事例の検討 第13回：児童会・クラブ活動、学校行事の具体的実践事例についての検討 第14回：合意形成に向けた話し合い活動、個人と集団との関わりについての在り方について 第15回：総合的な学習の時間と特別活動の事例をもとにしたまとめ			

定期試験は実施しない。

テキスト

総合的な学習の時間の指導法（村川雅弘、野口徹他 4 名、日本文教出版）

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年 7 月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年 7 月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年 7 月告示 文部科学省）
- ・ 小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年 7 月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年 7 月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年 7 月告示 文部科学省）

学生に対する評価

毎回の授業についての振り返り（60%）、作成した単元指導計画（10%）、まとめのレポート（30%）

授業科目名： 教育方法・技術（情報 通信技術の活用含む幼 小中高養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 俊行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>子どもたちの資質・能力を育成するために必要とされる教育の方法・技術に関する考え方や 枠組み、その歴史・動向を扱う。とりわけ、その今日的な展開である、情報通信技術を効果的 に活用した保育・学習指導や校務の情報化、情報活用能力の育成等に関する学びを受講者に提 供する。</p> <p>上記のテーマに関して、履修する学生には、次の目標の達成が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> （１）本授業の内容について説明できる。 （２）本授業の内容を踏まえ、実践的・応用的な考えや意見を表現できる。 （３）本授業の内容に関して、それを実践しようとする態度を示す。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義の前半では、教育の方法・技術に関する理論、その幼稚園教育要領や学習指導要領に おける教育方法の現代的展開を講ずるとともに、その実践事例を学習指導案や映像記録等で確 認する。また、講義の後半では、幼稚園・学校における教育の情報化、とりわけ情報通信技術 を利活用した保育・授業の今日的展開を紹介する。いずれの講義においても、理論や実践事例 等に関して、受講者の吟味、受講者間の協議等の場面を設定し、受講者には、教育方法・技術 を主体的かつ協働的に学んでもらう。また、そうした活動においては、受講者が ICT を活用す る形態を導入する（学校等における利用の原体験を積んでもらう）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:教育方法・技術を学ぶ意義</p> <p>第2回:教育方法学の歴史の変遷</p> <p>第3回:授業技術の基本と実践</p> <p>第4回:保育・学習環境構成の工夫</p> <p>第5回:資質・能力の育成に応じた学習指導法の工夫</p> <p>第6回:主体的・対話的で深い学びの考え方と実践</p> <p>第7回:学習評価の考え方と実践</p> <p>第8回:学校における教育の情報化の意義と全体像（ICT 環境やデジタルコンテンツの整備、保 育・授業における ICT 活用、情報教育、校務の情報化）</p>			

第9回:保育・授業における ICT 活用（指導者の利用と子どもの活用、スタディ・ログの活用を含む）

第10回:各教科等における情報活用能力の育成（学習の基盤としての資質・能力を含む）

第11回:情報モラル教育の実践

第12回:プログラミング的思考を育む実践

第13回:遠隔・オンライン教育の可能性と留意点

第14回:学習指導案の作成

第15回:講義の総括

定期試験は実施しない。

テキスト

教育方法とカリキュラム・マネジメント（高橋純編著、学文社）

参考書・参考資料等

・文部科学省のホームページの以下のものの最新版を参考資料とする。

幼稚園教育要領（本文、解説）

小学校学習指導要領（本文、解説）

中学校学習指導要領（本文、解説）

高等学校学習指導要領（本文、解説）

・その他、必要資料を適宜配付・指示する。

学生に対する評価

小レポート（40%）、最終レポート（60%）

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福本 義久 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①授業に熱心に取り組み、積極的に参加できる。</p> <p>②生徒指導・進路指導についての基本的な内容を理解し、説明できる。</p> <p>③児童生徒の「自己指導能力」を育てるための生徒指導の意義を表現できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導は、学習指導と共に学校教育の二本柱となる教育活動である。しかし、教育課程上には「生徒指導」の時間が位置づけられていないことから、すべての教育活動を通じて行われなければならない重要な営みである。つまり、児童生徒の健全な成長を促し、自ら現在及び将来にわたって自己実現を図っていくための「自己指導能力」を育成することにその主眼がある。このような生徒指導観に立ち、これからの次代を担う児童生徒をはぐくむ生徒指導及び進路指導の意義や機能、その具体的な指導の実際について学び、実践的な指導力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導論を学ぶ目的</p> <p>第2回：生徒指導の意義と課題</p> <p>第3回：子どもの発達と生徒指導</p> <p>第4回：学校運営と生徒指導</p> <p>第5回：学習（保健）指導における生徒指導</p> <p>第6回：児童生徒の心理と児童生徒理解</p> <p>第7回：児童生徒理解の具体的な方法</p> <p>第8回：生徒指導と教育相談</p> <p>第9回：教育相談の具体的な進め方</p> <p>第10回：生徒指導上の課題①「いじめ」</p> <p>第11回：生徒指導上の課題②「虐待」</p> <p>第12回：生徒指導上の課題③「少年非行」「暴力行為」</p> <p>第13回：生徒指導上の課題④「家出」「不登校」</p> <p>第14回：懲戒の種類と手続き（「出席停止」を含む）</p> <p>第15回：キャリア教育（進路指導を含む）の必要性和意義</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

生徒指導提要（最新版）（文部科学省、教育図書）

参考書・参考資料等

適宜配付・指示する。

学生に対する評価

毎時間のワークシート（小レポート等）平常点（70%）、定期試験（30%）

授業科目名： 教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丹羽 智美、勝間 理沙 担当形態：クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 発達過程にある子どもの姿を理解するための基礎的な知識を持つことができる</p> <p>② 知識を使って1人1人の子ども理解やケアの方法について考えることができる</p> <p>③ チームや連携を意識しながら子ども・家庭支援を考えることができる</p>			
授業の概要			
<p>現代の子どもを取り巻く環境は多様であり、社会は急速に変化する。その中で子どもが環境適応し、発達課題を乗り越えていくためには、その子どもに応じた支援が必要となってくる。そのためには、教師が子ども自身の心理状態やその周囲の環境との関係を理解する枠組みを知り、その上でどのような支援ができるのかについて知識や理論を踏まえ考えることができる力が求められる。そこで、理解する枠組みとしての理論や知識と、相談場面で必要となる技術を学ぶ。そして、子どもを支援するのは学校、家庭、地域が連携していかなければならない。その連携の仕方についても学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：学校での相談活動の意味と特徴			
第2回：問題を理解する心の力動性：フロイトの精神分析の視点			
第3回：問題を理解する心の力動性：ロジャーズの自己理論の視点			
第4回：問題を理解する心の力動性：行動分析の視点			
第5回：発達・環境と問題行動：いじめと関連する発達・環境的要因、その対応			
第6回：発達・環境と問題行動：非行と関連する発達・環境的要因、その対応			
第7回：発達・環境と問題行動：不登校とその対応、予防的取り組み			
第8回：カウンセリング：学校での相談活動におけるカウンセリング・マインド			
第9回：カウンセリング：相談場面における基本姿勢と技法			
第10回：カウンセリング：非言語面から子どもの内面を知る			
第11回：カウンセリング：学校での相談環境への配慮			
第12回：家庭・家族の多様性と保護者理解			
第13回：教育相談の進め方と目標			
第14回：校内での組織的対応			
第15回：地域の専門機関との連携			

定期試験
テキスト 特に指定しない。必要な資料は授業内で配付する。
参考書・参考資料等 学校現場で役立つ教育相談 教師をめざす人のために（藤原和政・谷口弘一（編著）、北大路書房） 生徒指導提要（最新版）（文部科学省、教育図書）
学生に対する評価 小レポートや課題などの平常点（40%）、定期試験（60%）

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（教諭）	単位数：2単位	担当教員名 教科担当：佐藤美子、船所武志、柏木賀津子、今井真理、永田（原田）麻詠、吉田康成、田辺昌吾、矢倉瞳、西口卓磨 教職担当：浅田昇平、木原俊行、福本義久、長澤洋信			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数	260人（コース別の指導の場合には20人程度のグループに分けて指導する）				
教員の連携・協力体制 中学校1種免許状、高等学校1種免許状、小学校教諭1種免許状および幼稚園教諭1種免許状取得予定者が受講対象となる。そのため、第6回から第8回、第10回から第14回の5回は英語、数学、理科および小学校教科、幼稚園保育内容の担当教員の連携の下に履修履歴を踏まえた指導を行う。また、羽曳野市・藤井寺市の教育委員会と連携し、外部講師の紹介等の協力をお願いする。					
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、教員としての資質能力が身に付いているのかを最終的に確認するために、以下の4つの到達目標を達成することを目的とする。 ①教職に就くにあたって、その使命感や責任感、倫理感を高め、幼児児童生徒への教育的愛情を持ち、表現できる。 ②対人関係能力を高め、学校現場で求められるような討論に参加できる。 ③各自の課題に応じて、学級経営に関係する具体的な作業を通して、学級通信や教材等を作成したり、幼児児童生徒や保護者への対応について説明したりできる。 ④各自の課題に応じて、教科や保育内容の指導力を高め、指導案や保育計画を作成でき、模擬授業や模擬保育で工夫できる。					
授業の概要 教育現場並びに教育行政の立場から講話を受けることにより、教員としての使命感や責任感、教育的愛情を高める。また、集団討論やソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れることで対人関係能力を身に付ける。さらに、ICTを活用した授業づくりや校務の進め方、学級経営の基礎・基本について、各自の問題意識や進路に基づきコース別に学ぶ。なお、7セメスター時に各自の履修カルテをもとに面接を実施し、学習指導案の作成や授業スキルなどの教育実践力をコース別に獲得する。コース別の授業実施には、1クラス30人以内を原則として演習形式で実施する。					
授業計画 第1回 オリエンテーション及び教育実習の振り返り（担当：福本義久） 第2回 「教職の意義」（外部講師（教育委員会）による講演）（担当：福本義久） 第3・4・5回 《以下の3つの教育課題について学ぶ。》 ①多様なこどもの理解（集団討論）（担当：永田（原田）麻詠） ②特別支援教育の現状と課題（集団討論）（担当：長澤洋信） ③「教職について考える」（集団討論）（担当：浅田昇平） 第6・7・8回 《以下の3つのコースの中から履修カルテや進路を踏まえコース別に学ぶ。》 ①ICT活用コース（ICTを活用した授業・校務について）（担当：木原俊行） ②学級経営コース（学級経営の実際）（担当：福本義久） ③幼児教育コース（幼稚園教諭の役割と課題）（担当：田辺昌吾） 第9回 「学校現場の現状と課題」（外部講師（校長先生）による講演）（担当：福本義久） 第10回・11回・12回・13回・14回 《以下の①と②の中から履修カルテや進路を踏まえ、コース・クラス別に分かれて学ぶ。》 ①教科別の指導案作成・模擬授業コース 国語（担当：船所武志・永田（原田）麻詠）社会（担当：西口卓磨）音楽（担当：矢倉瞳）理科（担当：佐藤美子）算数（担当：福本義久）体育（担当：吉田康成）図画工作（担当：今井真理）英語（担当：柏木賀津子） ②幼児保育実践コース（担当：田辺昌吾） 第15回 教師としての倫理観（担当：木原俊行・福本義久） 定期試験は実施しない。					
テキスト 各回の課題に応じて、「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領：外国語編・数学編・理科編」「高等学校学習指導要領：外国語編・数学編・理科編」「生徒指導提要」を使用する。					
参考書・参考資料等 必要に応じて、プリント資料を配付する。					
学生に対する評価 小テストなどの平常点40%、レポート課題3つ（計60%）。レポート課題は3つの課題をすべて提出することを単位認定の要件とする。1つでも提出していない場合は、不合格とする。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。